

第二段階の統合場所を検討するに当たっての前提条件と視点・評価表

I 前提条件と視点

前提条件 幸町地区の統合校

(1) [一小+四小]・二小の統合

(2) 平成26年4月に新設校として開校

検討の視点

どの場所が「子どもたちにとってより良い教育環境」となるのか。

II 評価表

評価項目		案1		案2		案3	
		統合場所: 幸町第一小学校		統合場所: 幸町第二小学校		統合場所: 幸町第四小学校	
		評価	理由	評価	理由	評価	理由
特別 言語・ 支援 教室	既存施設・ 設備の使用	×	不可能 要別棟改修	○	可能	×	不可能 要増築
	通級者の車に よるアクセスの 利便性	×	ない 別棟校舎まで入りにくい 別棟校舎周辺に駐車場がない	○	ある 別棟校舎まで入りやすい 別棟校舎周辺に駐車場がある	×	ない 学校まで入りにくい 駐車場が狭い
	通級者の 負担	×	増える	○	変わらない	×	増える
通学距離の負担		△	中 1.4km圏内	△	中 1.4km圏内	○	少 1.1km圏内
運動 場	小学校 設置基準	○	満たしている 6,980㎡(1人当たり14㎡)	○	満たしている 9,130㎡(1人当たり18㎡)	○	満たしている 増築前:8,274㎡(1人当たり17㎡) 増築後:6,274㎡(1人当たり13㎡)
	100m直 線トラック の確保	○	可能 形状が整っている	○	可能 形状が整っている	△	増築前:可能 増築後:不可能 形状が整っていない
	校庭の 水はけ	○	良い 整備(H17)6年目	○	良い 整備(H16)7年目	×	悪い 整備(H2)21年目
子どもルームの 設置		○	あり	○	あり	×	なし
校舎	校舎の形状 による子ども の把握	○	しやすい 校長室から校庭が見える 一本型で廊下を一気に見通せる	○	しやすい 校長室から校庭が見える 一本型で廊下を一気に見通せる	×	しにくい 校長室から校庭が見えない コの字型で廊下を一気に見通せない
	必要教室 数(24)	○	満たしている 保有教室数39	○	満たしている 保有教室数39	×	満たしていない 保有教室数18
	工事規模	×	大 耐震補強の必要箇所→多 老朽改修の必要箇所→多	△	中 耐震補強の必要箇所→多 老朽改修の必要箇所→少	×	大 耐震補強の必要箇所→少 老朽改修の必要箇所→多 増築工事→多
	工期	△	1年半 仮校舎(2小)に移動する	○	1年 居ながら施工ができる	×	1年半 工事を始めるまでに時間がかかる
	引越しの 負担	×	3回 ①第一段階(4小→1小) ②第二段階(1小→2小) ③第三段階(2小→1小)	○	2回 ①第一段階(4小→1小) ②第二段階(1小→2小) ※居ながら施工を前提	×	3回 幸町二小 を仮校舎と する案 ①第一段階(4小→1小) ②第二段階(1小→2小) ③第三段階(2小→4小)
URとの 協議	○	必要なし	○	必要なし	×	2回 仮校舎を 設定しない 案 ①第一段階(4小→1小) ②第二段階(1小→4小) 〃 (2小→4小) ※統合時期が前提条件と適合しない 必要 協議に時間がかかると 統合スケジュールに影響	